

外国語科学習指導案

令和7年 月 日 ()

1年 組 名

1 単元名 Unit5 My Brother in Hawaii

NEW HORIZON English Course 1 (東京書籍)

2 本単元で扱う領域における「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標 (第1学年)

聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
はっきりと話されれば、ラジオ等の交通情報や電話連絡などから、必要な情報を聞き取ることができる。	好きなことや日常的にしていることについて書かれた自己紹介ポスターなどについて、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができる。	自分が好きなことや日常的にしていることについて、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。	スポーツ、音楽などについて、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができる。	スポーツ、音楽など自分が好きなことなどについて、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができる。
はっきりと話されれば、身近な人や有名人についての対話や、クラスメートのスピーチなどについて、話の概要を捉えることができる。	有名人や身近な話題についての紹介文などを読んで、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができる。	身近な人や有名人などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。	自分が普段よくすることや、過去の出来事などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。	生徒自身や家族に関することについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。
はっきりと話されれば、国際支援や水問題などについて、短い説明の要点を捉えることができる。	国際支援や水問題などについて、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができる。	国際支援や水問題などに関して、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができる。	国際支援や水問題などに関して、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができる。	自然環境や世界情勢などに関して、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができる。

3 単元における指導構想

○教材観

本単元は、登場人物がハワイに住む兄の紹介をし、クラスメートがスピーチに関する質問をしている。その後、その兄のブログを読みハワイの生活について知る場面である。自分と相手以外の人物や物事に関する紹介や質問が多く使われている内容となっている。

言語材料としては、ハワイのことや登場人物の兄のことを紹介しより深く知るために、本文中に三人称単数現在形の肯定文、疑問文、否定文が使われている。

したがって、この単元では自分と相手以外の人物について紹介、質問する力を養うことができるものとする。

○生徒観

本学級の生徒は、ペアワークでのやりとりに真面目に取り組み、単語の練習や音読活動など、与えられた英語を話そうという意識は高い。これまでの学習では、自己紹介文を読み合いお互いのことを知る活動や、相手に質問してより深く知ることの活動に取り組んできた。どの活動でも、表現しようとする意欲はあるが、自信がなく黙ってしまったり、表現が分からず止まってしまったりする生徒が一定数いる。

そこで、本単元では友だち紹介という身近な題材を扱うことによって、お互いのことをさらに深く知りたい、そのために英語を話したい、と思う意欲を引き出したい。さらに、自分と相手以外の人物について繰り返し話す活動をすることによって、自信を持ってやり取りができる力を養いたい。

○指導観

本単元は、自分が読んだり聞いたりしたことをもとに、自分と相手以外の第三者について相手に

伝える、質問する力を養うのに適した内容となっている。そこで、言語活動として、生徒が慣れ親しんでいる教科書本文の登場人物や教師やALTなど、身近な人物の紹介を繰り返すことを通して、読む・聞くことと書く・話すことの技能の統合に焦点を当てた指導を行う。その中で、三人称単数現在形の用法を身に付け、第三者を紹介する内容を磨くと同時に、コミュニケーション技法についても使えるようにさせたい。単元終末の言語活動として、自分のパートナーをほかの友だちにより深く知ってもらうための発表に向けて、パートナーへのインタビューをして、事実や事実から読み取れたパートナーの情報を紹介する。その後、一度ほかのペアに紹介文を発表し、相手をもっと知りたい情報を再びパートナーに聞くことで、さらに深まりのある紹介文を話すことができるよう指導する。

4 単元の見積

自分のパートナーの魅力クラスメイトに知ってもらうために、身近な人（自分のペア）に関して聞いた情報を基に、事実に加えて自分の考えなども入れながら紹介することができる。

5 単元の評価規準（「話すこと [発表]」の評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〈知識〉 三人称単数現在形の特徴やきまり、インタビューの表現を理解している。</p> <p>〈技能〉 身近な人（自分のパートナー）に関して聞いたことを、三人称単数現在形を用いて伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>自分のパートナーの魅力クラスメイトに知ってもらうために、身近な人（自分のパートナー）に関して聞いたことをもとに、事実に加えて自分の考えも入れながら発表している。</p>	<p>自分のパートナーの魅力クラスメイトに知ってもらうために、身近な人（自分のパートナー）に関して聞いたことをもとに、事実に加えて自分の考えも入れながら発表しようとしている。</p>

6 指導と評価の計画（8時間）

時間	ねらい（■）、言語活動等（丸文字）	評価			備考
		知	思	態	
1	<p>■単元の目標を理解する。</p> <p>■パートナーの友だちにインタビューし、クラスメイトに紹介する。</p> <p>①自己目標を設定する。②パートナーの友だちにインタビューして、友だちのことを知る。③これまでに習った表現をもとに、パートナーについてクラスメイトに紹介をする。④クラスメイトからもっと知りたいことを聞き、パートナーに質問する。⑤質問した内容をもとに、紹介文の構想を考える。</p>	記録に残す評価は行わないが、目標に即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かす。			
2	<p>■教科書本文の紹介文を読み、引用するなどしながら、本文以外の人物について紹介する。</p> <p>①三人称単数現在形の肯定文を使って作成された教科書本文を読み、構造を理解する。②教科書本文の音読を通して、三人称単数現在形の肯定文に慣れ親しむ。③過去の教科書に出てきた登場人物についての英文を読み、紹介文を書く。④書いた内容をパートナーに紹介する。</p>				
3	<p>■教科書本文を読み、登場人物についてクラスメイトに紹介する。</p> <p>①教科書本文に出てきた登場人物について、教科書をさかのぼって読み、紹介文を書く。②書いた内容をパートナーに紹介する。</p>				
4	<p>■教科書本文のやりとりを読み、三人称単数現在形の疑問文の用法を理解する。</p> <p>①三人称単数現在形の疑問文を使って作成された教科書本文を読み、構造を理解する。②教科書本文の音読を通して、三人称単数現在形の文に疑問文に慣れ親しむ。③パートナーが週末にすること紹介し、それについて聞き手が質問する。</p>				
5	<p>■教科書本文の登場人物についてもっと知りたいことをパートナーと聞き合う。</p> <p>①JETが紹介した人物について、さらに知りたいことを質問する。②第四時に紹介した登場人物について、さらに知りたいことを相手に質問する。</p>				

6	<p>■教科書本文の記事を読み、三人称単数現在形の否定文の用法を理解する。</p> <p>①三人称単数現在形の否定文を使って作成された教科書本文を読み、構造を理解する。②教科書本文の音読を通して、三人称単数現在形の文に否定文に慣れ親しむ。</p>			
7	<p>■先生やALTの先生にインタビューし、クラスメートに紹介する。</p> <p>①JET/ALTにインタビューし、それをもとに紹介文を書く。②書いた紹介文をクラスメートに紹介し、もっと知りたいことを質問してもらう。③再びJET/ALTにインタビューして、情報を書き加える。④班で書いた情報について全体に発表する。</p>			
8 (本時)	<p>■クラスメートに向けて自分のパートナーをより深く知ってもらうためにスピーチをする。</p> <p>①パートナーにインタビューして紹介するスピーチの内容を考える。②クラスメートに紹介し、内容面でもっと知りたいことを質問してもらう。③再びパートナーにインタビューする。④より多くのクラスメートにパートナーのことを深く知ってもらうようにスピーチをする。⑤スピーチを録画し、提出する。</p>	○	○	○

〈活動観察、提出物評価〉

- ・三人称単数現在形を正しく用いることができるか。
- ・三人称単数現在形を用いて、事実や自分の考えを伝えることができるか。

7 本時の活動（第8時）

(1) 目標

自分のパートナーの魅力をクラスメートに知ってもらうために、インタビューで引き出した情報を英文にまとめスピーチすることができる。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価の場面	評価方法
5分	1 挨拶をし、本時の目標について知る。	・全体に挨拶をし、ペア同士で挨拶をさせる。		
自分のパートナーにインタビューし、その魅力を友達に伝えよう。				
7分	2 ペアでインタビューをして、紹介するスピーチの内容を考える。	・相手から聞き取ったことはメモに残しておくよう指示する。		
10分	3 第二ペアに自分のパートナーについて紹介し、内容を見直す。 ①紹介 ②質問の時間を分ける	・見直しの視点として、「内容の深まり」や「もっと知りたいこと」を意識するよう促す。		
8分	4 再び元のペアでインタビューし、紹介する内容を再考する。	・机間巡視し、英語の表現などについて確認する。		
8分	5 より多くの人に、自分のパートナーについて知ってもらうためにスピーチをする。	・机間巡視し、スピーチの伝え方や姿勢について指導する。		
8分	6 タブレットにスピーチを録画し、提出する。	・時間内であれば何度も録画してよいことを伝える。	知・思・態	録画した動画
2分	7 振り返りをし、挨拶をする。			

8 評価及び指導の例（話すこと〔発表〕）

「十分満足できる」と判断される状況(a)	既習事項や、活動を通して学んだ語彙や表現を積極的に活用し、身近な人物について、得た情報をもとに、できるだけ多くの文を発表するなど、相手に分かりやすく伝える文となるよう工夫している。
「おおむね満足できる」状況(b)を実現するための具体的な指導	全体指導や個別指導を通して語彙や表現を想起させるなどして、身近な人物について、簡単な語句や文を用いて説明することができるよう支援する。
「努力を要する」状況(c)と判断した生徒への事後指導	身近な人やものについて、簡単な語句や文を用いて説明することができるよう個別支援を行い、単元の指導後も似たような話す活動をする等、機会を捉えて語彙や表現を繰り返し練習させながら「おおむね満足できる」(b)を達成できるようにする。